

— 地域工務店・大工職人の「感覚的領分」と変わりゆく生活者の美意識の存続継承活動

静岡文化芸術大学(植田 道則)

日本の在来木造住宅は、日本人の生活と密接に結びつき日本の美意識を形成してきたが、大工職人の高齢化と後継者不足が深刻な社会問題となっている。一方、これまで培ってきた日本の美意識も、人々の価値観の変化とともにその在り様は変わりつつある。本研究は、大工職人が携えてきた経験と勘による技術の領域(暗黙知)と大工職人自らが醸成してきた美意識が統合された領域を「感覚的領分」と定義し、生活者がもつ美意識との共通点・相違点を明らかにすることを目的とする。人文芸術科学の研究者や地域関係者が連携して知を結集し、在来木造の質と生産性の向上、日本の美意識の継承を探究している。

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

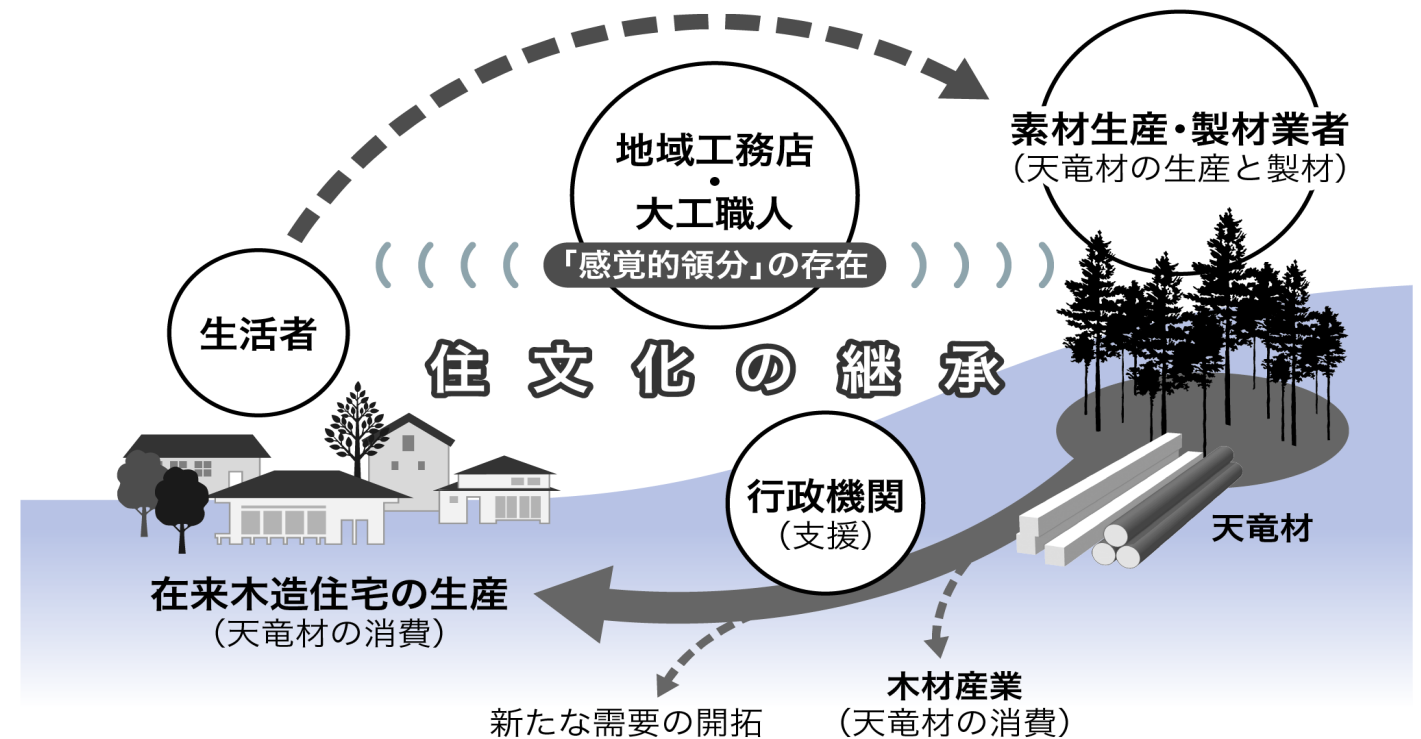
生活者の美意識との共通点・相違点を明らかにすることを目的とする。地域工務店・大工職人を再評価し、日本の住文化の継承と「感覚的領分」の世界発信を目指す。

ビジョン達成のための課題

地域産材を媒介とした六次産業化の仕組みの把握や、生活者の受け止め方の把握が求められる。住文化の継承に向け、次世代を見据えた調査が必要である。

「矩」を超えた場づくり / 得られた新たな価値

研究者が活動のコアとなって、地域産材流通のネットワークの元で学術・実践知・地域の生活者が連携し日々活動を行っている。活動の検討過程で発生する事案に対し、関連分野の専門家や行政等と協力をを行い、持続可能社会に向けた、在来木造の質・生産性向上と日本の美意識の継承を探究する。



“天竜材”を例とした、住文化の継承を支える地域産材流通ネットワークの仕組み

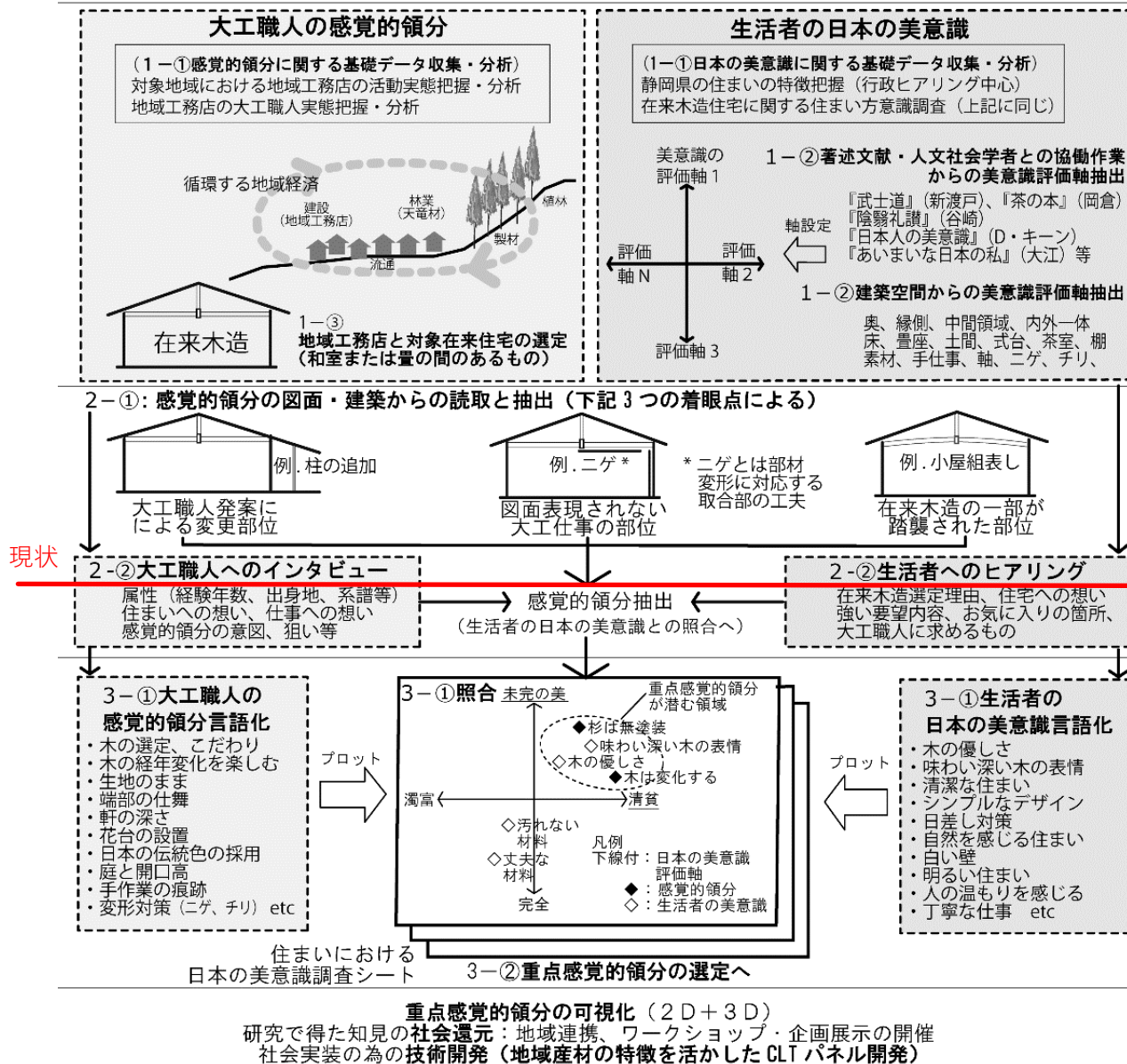


図1 研究活動の進め方

ステップ1

ステップ1

地域工務店・大工職人に関して生活者の日本の美意識についての二つを平行して進める。各々文献調査と活動実態を把握し基礎資料の収集を行う。参考資料: 国交省(2019)「日本人の感性(美意識)の変化」(『国土交通白書』, PP.20-35)

ステップ2

ステップ2

地域工務店・大工職人に、在来木造住宅における感覚的領分の読取(図面と実物)を実施、大工職人と生活者へのヒアリングを通じ、大工の想い(働きかけ)生活者の受け止め方(受容)の関係を探る。

ステップ3

ステップ3～

地域工務店・大工職人の「感覚的領分」の言語化・視覚化を通じ、生活者の意識の変化と照合を図り、住文化継承の底流となる要素の抽出を図る。活動による知見を、技術開発ワークショップや企画展示を通じて、国内外への情報発信に結びつける。